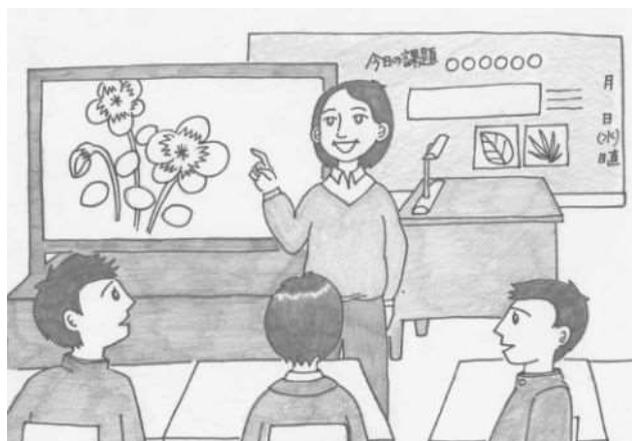


# 令和2年度 川崎市立中学校 学習状況調査 概要



## ◎ 調査の概要

### 1. 調査の目的

学習指導要領に示されている各教科（国語・社会・数学・理科・英語）の目標および内容の「基礎的・基本的な知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」について学習したものが、いかに生徒に定着しているかを全市一斉に学年ごとの同一の問題によって調査する。そして、その結果を診断し、今後の学習指導の改善に役立たせる。また、生徒自らが学習状況や学習課題の把握ができるようにする。

### 2. 調査の内容

#### ○ 国語・社会・数学・理科・英語

調査の目的に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標及び内容の基礎的・基本的な事項について、各教科の出題範囲に基づいて、全学年を対象とする調査を実施した。

#### ○ 学習意識調査（生活や学習についてのアンケート）

生徒の生活や学習に対する意識等について明らかにするために、第2学年の生徒を対象とする調査を実施した。

### 3. 調査の対象

市内全市立中学校の全学年の生徒

### 4. 調査実施日及び調査実施人数

- |            |                   |
|------------|-------------------|
| (1) 調査実施日  | 令和2年11月10日（火）     |
| (2) 調査実施人数 | 中学校 第1学年 10,158 人 |
|            | 中学校 第2学年 9,899 人  |
|            | 中学校 第3学年 9,627 人  |

## 5. 調査の方法

○ 国語・社会・数学・理科・英語

各教科の問題は、知識・技能に関する問題と思考・判断・表現に関する問題について出題し、それぞれについて分析を行った。

### 解答用紙

令和2年度 川崎市立中学校 学習診断テスト 数学 2年 解答用紙

※右下の欄に「受検者シール」をはること。

問	知技	愚判表
問 1	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	1 /3 /1
問 2	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	2 /3 /1
問 3	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	3 /3 /1
問 4	(ア) $x = \quad, y = \quad$ (イ) $x = \quad, y = \quad$ (ウ) $x = \quad, y = \quad$	4 /3 /1
問 5	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	5 /2 /1
問 6	(ア) $y = \quad$ (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	6 /2 /1
問 7	(ア) $\text{cm}^2$ (イ) (ウ) 本 (エ) $\text{cm}$	7 /2 /2
問 8	(ア) 分以上 分未満の階級 (イ) と	8 /1 /1
問 9	(ア) (イ) (ウ) (エ) (オ) (カ) (キ) (ク) (ケ) (コ) (サ) (シ) (ス) (セ) (ソ) (タ) (チ) (ツ) (テ) (ト) (ナ) (ニ) (ヌ) (ネ) (ノ) (ハ) (ヒ) (フ) (ヘ) (ホ) (マ) (ミ) (ム) (メ) (モ) (ヤ) (ユ) (ヨ) (ラ) (リ) (ル) (レ) (ロ) (ワ) (ヰ) (ヱ) (ヶ) (ヷ) (ヸ) (ヹ) (ヺ) (・) (ー) (ヽ) (ヾ) (ヿ)	9 /1 /2
正答数の合計		正答数 /16 /12

網掛けは、思考・判断・表現に関する問題

正答数の合計

<注意> 右のマークは、ゆりつぶしたり、傷をつけたりしてはいけません。

川崎市立 中学校 組 番

2020108200000

受検者シール

ここに受検者シールをはってください。

T KW数2-1

◎ 調査結果の概要

平均正答率

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語
知識・技能	69.8%	63.4%	67.3%	53.6%	65.3%
思考・判断・表現	60.4%	55.9%	50.8%	49.3%	34.9%
全設問	63.9%	60.6%	60.2%	52.0%	49.6%

主な分析結果（課題等）

国 語

- 既習の漢字を正しく読むこと（知・技）
- 既習の漢字を正しく書くこと（知・技）
- 文章全体の内容を踏まえ、文章中の言葉が表す内容を捉えること（思・判・表）

社 会

- 基本的な用語を理解すること（知・技）
- 歴史的分野で「文化」や「社会」に関する事象を理解すること（知・技）
- 事象の因果関係に着目して、事象を関連付けて考察すること（思・判・表）

数 学

- 連立二元一次方程式を解くこと（知・技）
- おうぎ形の弧の長さを求めること（知・技）
- 図や表から変化の様子を捉え、数学的に表現すること（思・判・表）

理 科

- 生物の観察におけるスケッチの仕方や観察記録の取り方を身に付けること（知・技）
- 問題のリード文や会話文の文脈と現象を関連付けて考察すること（思・判・表）
- 質量パーセント濃度を求めるための立式をすること（知・技）
- 探究の過程における結果と方法等を関連付けて考察すること（思・判・表）

英 語

- 場面に合った適切な応答を選択すること（知・技）
- それぞれの語の意味と性質をつかみ、文を組み立てること（知・技）
- 場面や状況を理解し、それに適した文章を正しく書くこと（思・判・表）

- 定着していると考えられる内容 ● 課題があると考えられる内容 ( ) 内は問題の分類

## ◎ 指導改善のポイント

### 1. 国語

#### 説明的な文章を読み、文章中の言葉が表す内容を捉える問題

#### ○ 出題の趣旨

説明的な文章の内容について理解・把握をする。

<p><b>正答率</b> 51%</p>	<p><b>正答</b> 1</p> <p>誤答選択率</p> <p>2 26% 3 10% 4 12%</p>	<p><b>主な課題</b> 文章全体の内容を踏まえ、文章中の言葉が表す内容を捉えること。</p>	<p>問五</p> <p>(エ) — 線⑧「最初のパートナー」とありますが、ここでいう「パートナー」とはどのようなもので、最もよいものを次の1〜4から選び、番号で答えなさい。</p> <p>それでは、被子植物はどのような生物とどのような関わりを作り上げていったのだろう。</p> <p>その⑧「最初のパートナー」は、すでに紹介した昆虫である。</p> <p>被子植物は、昆虫に花粉や蜜を与え、その代わりに花粉を運んでもらうという共生関係を手に入れた。この相思相愛の共生関係を進化させる過程で、最初に花粉を運んだ昆虫は、コガネムシの仲間であったと考えられている。言わば、植物にとっては初恋の相手である。</p> <p>( 中 略 )</p> <p>しかし、花粉を運ぶ昆虫の中にも、効率良く花粉を運んでくれる昆虫と、そうでない昆虫がいる。植物の立場に立ってみれば、できれば効率よく花粉を運んでくれる昆虫に花に来てほしい。</p> <p>こうして植物はパートナーを選び好みするようになった。</p> <p>そんな植物の要求に応えるように進化をしたのが、花から花へと華麗に飛び回るハチの仲間である。植物の中には、器用なハチをパートナーとして選ぶものが出現した。</p> <p>ハチを呼び寄せるために、植物は花を美しい花びらで目立たせた。そして、花粉とは別に「蜜」という特上のご馳走を用意したのである。</p> <p>しかし、豪華なご馳走を用意すれば、ハチ以外の昆虫たちも集まってくる。そのため、植物は器用なハチだけに蜜を与えるように、蜜を花の奥に隠したり、花の形を複雑にして他の虫の侵入を拒むようになっていったのである。</p> <p>そして、ハチはといえば、花の形が複雑になれば、それに対応して、花にもぐりこむ能力を発達させたり、花の形を認識する能力を発達させていった。</p> <p>こうして、⑨植物と昆虫とは共に進化を遂げていったのである。</p> <p>(稲垣栄洋「敗者の生命史38億年」より)</p>
---------------------------	--	---	---

#### ○ 授業改善に向けて

この問題では、文章中の言葉が表す内容を理解することが求められている。考える際には、単独の言葉や一文のみを根拠とするのではなく、書かれている言葉それぞれの意味や表す内容を的確に捉え、文章全体の内容を理解することが必要になる。また、選択肢の文が表す内容を正確に捉えることも必要である。

授業改善の手立てとしては、それぞれの言葉や文が表す内容を意識しながら丁寧に読むことを通して、文章全体の内容を理解できるような指導の工夫が必要である。その際には、言葉の意味やはたらき、文と文との関係等に着目し文脈に沿って内容を正確に捉えたり、その言葉や文が表す文章中での意味を考えたりすることが大切である。

## 2. 社会

### 近世の日本の大きな流れについて考え判断することに関する問題

#### ○ 出題の趣旨

鎖国に至るまでの流れを正しく理解し、適切に判断しているかを問う。

問 3 「近世の日本」について、略年表をみて、つぎの(ア)～(オ)の問いに答えなさい。

#### 略年表

年代	できごと
1603年	徳川家康が征夷大將軍に任命され、 <sup>a</sup> 江戸幕府を開く。
1615年	大阪夏の陣が起こり、豊臣氏がほろびる。
1641年	オランダ商館を長崎の <sup>b</sup> 出島に移す。
18世紀後半	<sup>c</sup> 田沼意次が政治を行う。
1787年	松平定信が寛政の改革を始める。
19世紀前半	<sup>d</sup> 化政文化が栄える。

(ア) 略年表中の X の期間のできごととしてⅠ～Ⅲを年代の古い順に並べかえたものを、下の①～④から1つ選び、番号で答えなさい。

- Ⅰ 天草四郎を大將に、島原・天草一揆が起こる。
- Ⅱ 徳川家康が幕府領に、キリスト教の禁教令を出す。
- Ⅲ ポルトガル船の来航を禁止する。

① Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ    ② Ⅱ→Ⅰ→Ⅲ    ③ Ⅱ→Ⅲ→Ⅰ    ④ Ⅲ→Ⅱ→Ⅰ

正答：②    **正答率：35%**    誤答選択率：③ 35%    ① 15%    ④ 15%

**主な課題 外国との関わりと国内の事象を関連付けて、鎖国に至る流れを考えること。**

#### ○ 授業改善に向けて

歴史的分野の学習では、我が国の歴史の大きな流れの理解に向けて、社会的事象を時期、推移などに着目して捉え、事象同士を因果関係などで関連付けて考察することが求められる。本問では、年表から読み取った情報から、「鎖国」に至る経緯を、外国との関わりと国内の事象を関連付けて考えることを出題の趣旨とした。

授業改善の手立てとして、歴史的分野の学習では、年表等の資料を活用して「どのようにして・・・」等の問いを設定して追究、解決する学習を行うことや、取り上げる社会的事象が「近世」というまとまりの中でどのような意義をもつかを考えること等が挙げられる。実際の授業では、「近世」の基礎を作り上げた江戸初期の諸政策のうち、鎖国政策がどのようにして行われていったのか、鎖国政策がその後の時代にどのような影響を与えたのか等の問いについて、調べ考える学習展開が考えられる。その際には、「～となったため、〇〇を行った」等、事象の因果関係に着目して事象の関連や時代の流れを考える学習活動が重要となる。

### 3. 数学

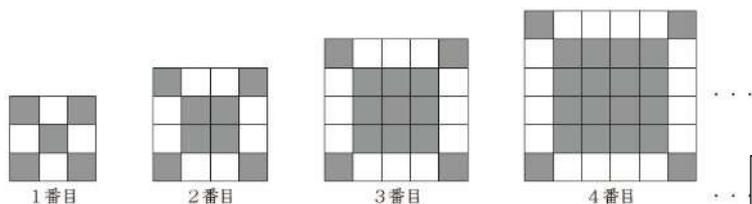
#### 図や表から変化の様子を捉え、数学的に表現することに関する問題

##### ○ 出題の趣旨

表の値の変化の様子を捉え、文字式で表現することができる。

#### 問2 次の問いに答えなさい。

(ア) 下の図のように、同じ大きさの正方形の白いタイルと黒いタイルをすき間なくしきつめて、1番目、2番目、3番目、4番目、…、 $n$ 番目までの正方形をつくります。



(イ) 下の表は、1番目、2番目、3番目、4番目、…、 $n$ 番目までの正方形をつくるのに必要な白いタイルと黒いタイルの枚数についてまとめたものです。①と②にあてはまる数を書きなさい。

	1	2	3	4	…	7	…	$n$
白いタイル(枚)	4	8	12	①	…	28	…	
黒いタイル(枚)	5	8	13	20	…	②	…	

↑ (イ)参考 正答率① 96% ② 54%

(ロ) ゆうこさんは、必要な黒いタイルの枚数が、1番目の正方形から順に、

$$1+4, 4+4, 9+4, 16+4, \dots$$

となっていることに気づきました。この考えをもとに、 $n$ 番目の正方形をつくるのに必要な黒いタイルの枚数を、 $n$ を使った式で表しなさい。

(ロ) 正答 :

$$n^2 + 4$$

**正答率 : 36%**

無答率 18%

#### 主な課題

変化の様子を捉え、数学的に表現すること。

##### ○ 授業改善に向けて

新学習指導要領解説数学編では、「数学的な見方・考え方」について、「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」と述べられている。これは一つの事象を多面的に考えることから、さらに統合的・発展的に考えること、そして、思考力・判断力・表現力等の資質・能力の育成につながると考えられる。

授業改善の手立てとして、いくつかの解決の方法を数学的な表現を用いて説明する場面を設定し、それぞれの方法について「図でいうとどのようなことか」、「式でいうとどのようなことか」など相互に結びつけたり検討したりすることで、さらに統合的・発展的に考えることなどが挙げられる。本問の場合では、図から四隅の4つのブロックと中の黒のタイルの正方形の数との和や、大きな正方形から4か所の白いブロックの差などから立式したり、(イ)の表や(ロ)の式から立式したりしたものを相互につなげ統合的に考えたり、さらに発展的に考えたりする場面を設定することが考えられる。

#### 4. 理科

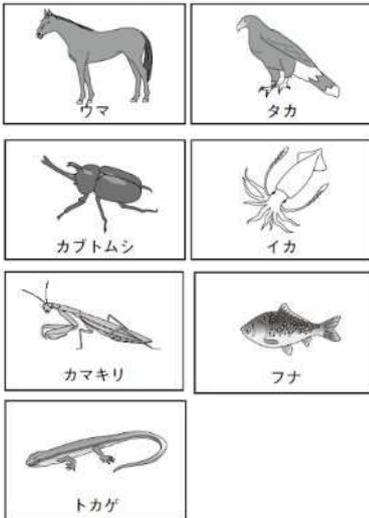
### 動物を比較して見いだした共通点や相違点を相互に関係付けて分類する問題

#### ○ 出題の趣旨

いろいろな動物の共通点や相違点を見いだすとともに、動物を分類するための観点や基準を見いだして分類しているかを問う。

**問 16** 川崎さんと多摩さんが7枚の【動物カード】について【会話】をしています。次の各問いに答えなさい。

#### 【動物カード】



#### 【会話】

川崎さん：このカードの動物の共通する特徴や違いについて整理してみようよ。

多摩さん：では、川崎さんからお願いします。

表1 川崎さんがななま分けしたもの

	A	B
C		
D		

川崎さん：できました。基準はまだ書いてないけど、多摩さんわかりますか。

a 表1で、川崎さんがななま分けした基準A～Dに当てはまるものとして正しいものはどれですか。次の①～④から1つ選び、その番号で答えなさい。

	A	B	C	D
①	爪がない	爪がある	体の表面は毛や羽毛、うろこでおおわれている	体の表面は毛や羽毛、うろこでおおわれていない
②	爪がない	爪がある	卵を産む	親と似た形の子を産む
③	生活場所は水中	生活場所は陸上	体の表面は毛や羽毛、うろこでおおわれている	体の表面は毛や羽毛、うろこでおおわれていない
④	生活場所は水中	生活場所は陸上	卵を産む	親と似た形の子を産む

正答：◎

**正答率：44%**

誤答選択率：◎ 32% ◎ 16%

### 主な課題

共通点や相違点から分類する様々な観点や基準を見いだすこと。

#### ○ 授業改善に向けて

思考力、判断力、表現力等を育成するためには、動物を魚類や鳥類などの一般的な分類をするだけでなく、生徒が理科の見方・考え方を働かせ、いろいろな生物の共通点や相違点を見だし、それらを基に生物を分類するための観点や基準を見いだして分類し、表現することが求められている。

授業改善の手立てとしては、例えば動物園や水族館は、生息環境や活動的な季節、色、形、大きさなどの「目的に応じた共通点」で動物を分類し、展示していること等を参考にしながら、生徒が見い

だした共通点や相違点を基に、さまざまな観点や基準を見いだして分類し、その結果を別の観点や基準で分類できるかどうかを検討したり、わかりやすく表現し合ったりすることが考えられる。

## 5. 英語

### 会話の流れや絵に適した英文を正しく書く問題

#### ○ 出題の趣旨

与えられた条件を満たすよう、ねらいに沿って、会話の流れや絵に適した文章を正しく書くことができる。

#### 問 8 a

あなたは飛行機に搭乗後、手荷物を置こうとしています。あなたなら目の前にいるキャビンアテンダントに何と質問しますか。

( ) に入るふさわしい表現を 4語以上 で書き、英文を完成させなさい。



正答例

Where can I put

**正答率：19%**

無答率 27%

#### **主な課題**

会話の場面や状況を正確に理解し、それに適した英文を正確に書くこと。

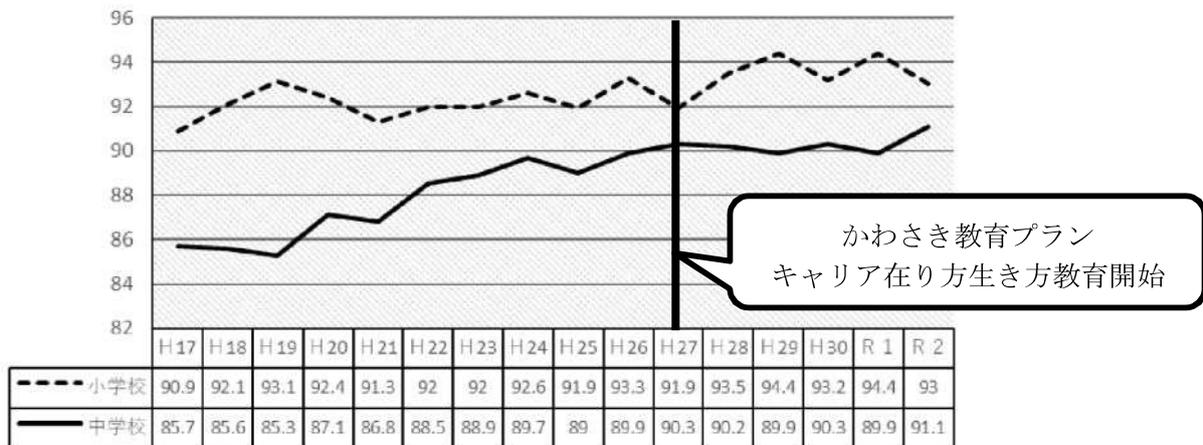
#### ○ 授業改善に向けて

正答率は19%、無答率は27%となっている。コミュニケーションを行う際には、目的や場面、状況に応じたコミュニケーションを行うことが重要であり、その上で、学習した表現を実際に使うことを繰り返すことで、思考力・判断力・表現力等が育成される。

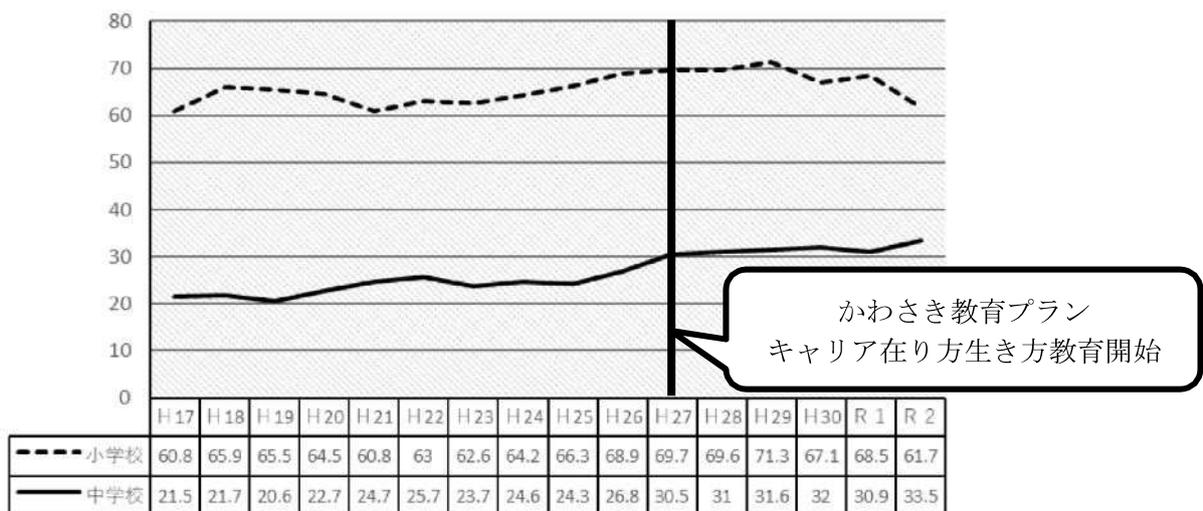
授業改善の手立てとしては、基本文や例文を覚えることのみで終始するのではなく、場面のあるコミュニケーション活動を繰り返し行うことが考えられる。また、コミュニケーションにおいては「伝わればよし」とするのではなく、コミュニケーション活動の途中で、語彙や文法の間違いを取り上げるなどの中間指導を行い、文法的な正確さについても段階的に意識させていくことが重要である。

◎ 生活や学習についてのアンケートについて 平成 17 年からの経年変化  
 1. 学校生活、勉強、各教科理解度の小中学校の経年変化

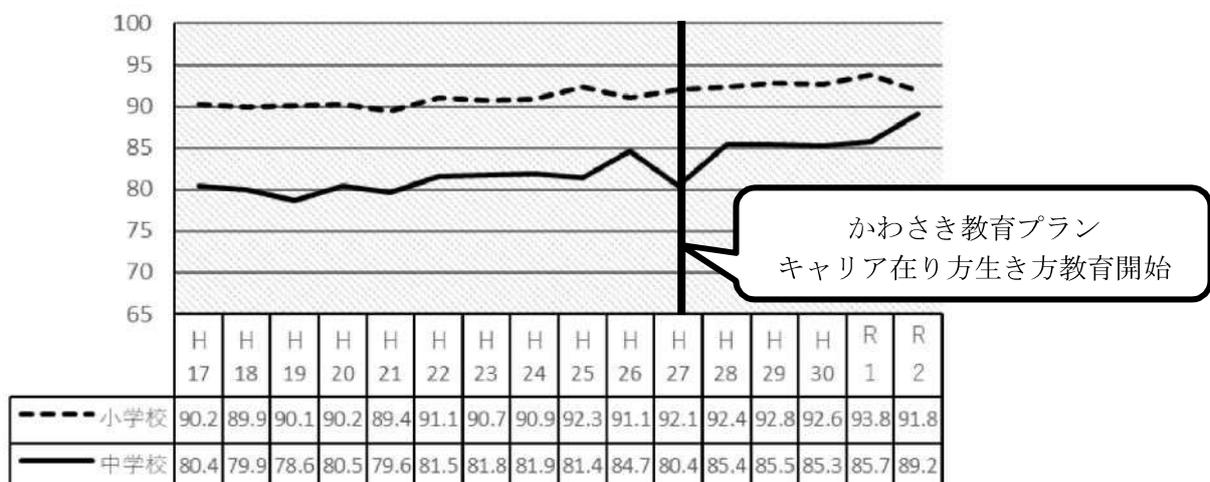
Q 1 学校生活は楽しいですか



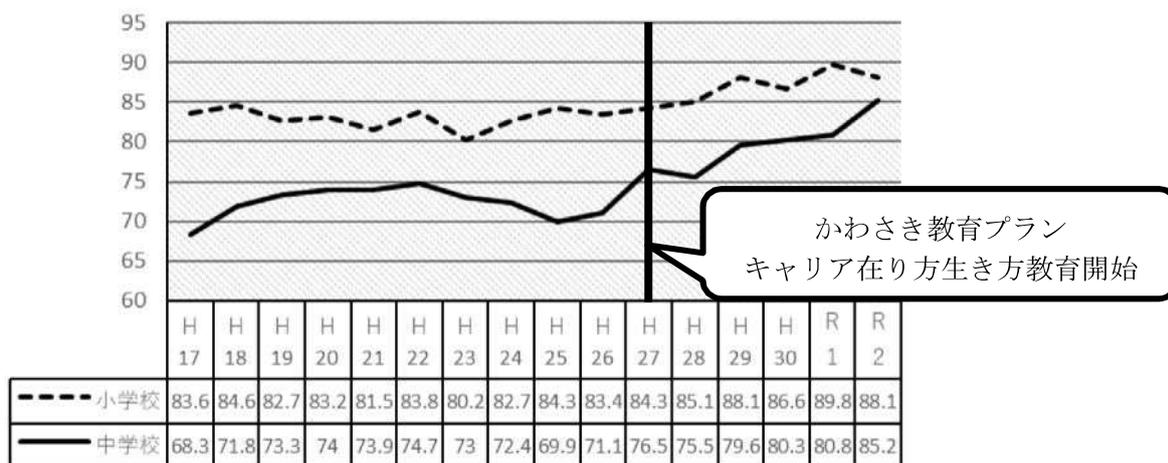
Q 2 勉強は、好きですか



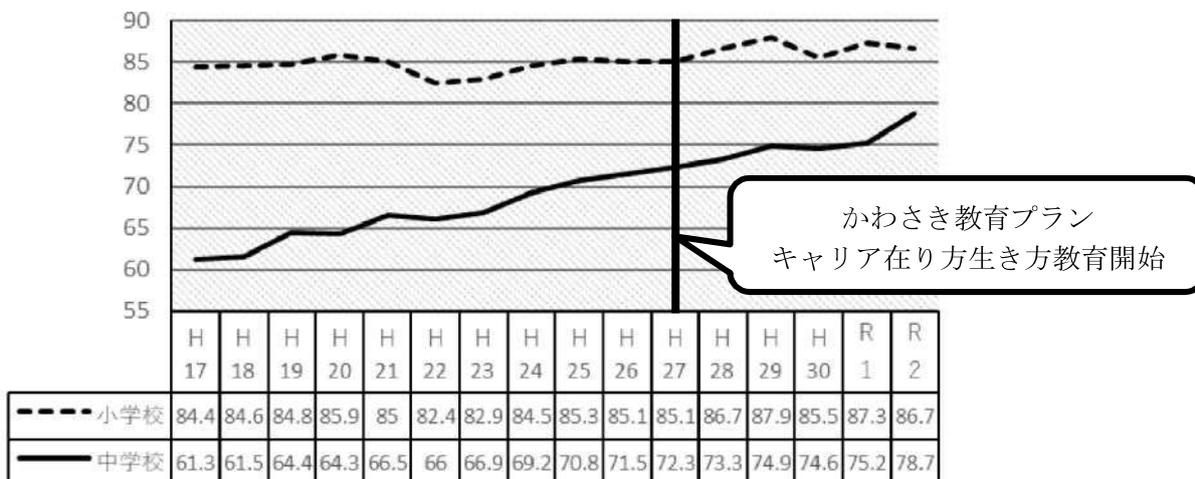
Q 10 理解度 国語



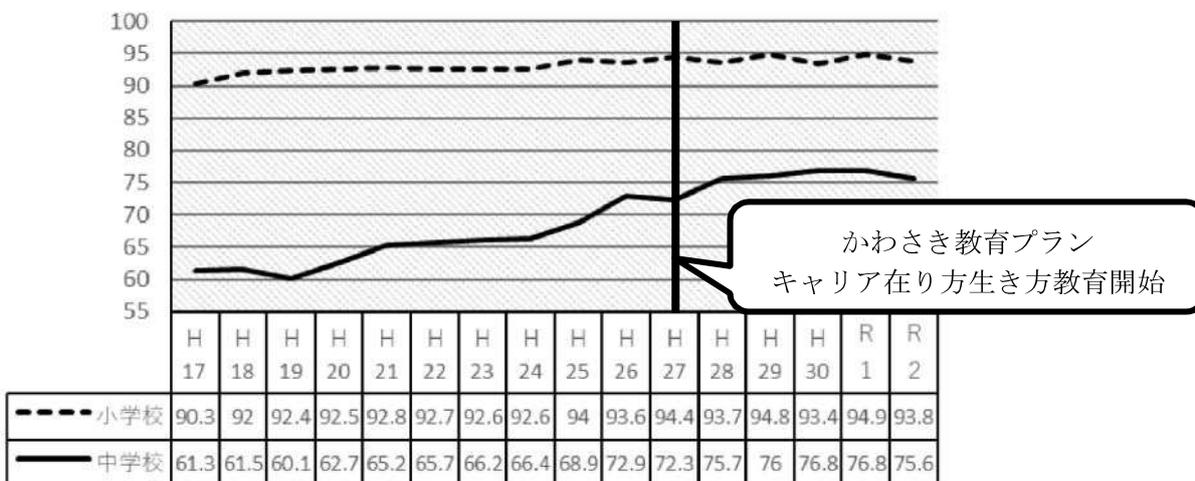
### Q 1 1 理解度 社会



### Q 1 2 理解度 数学



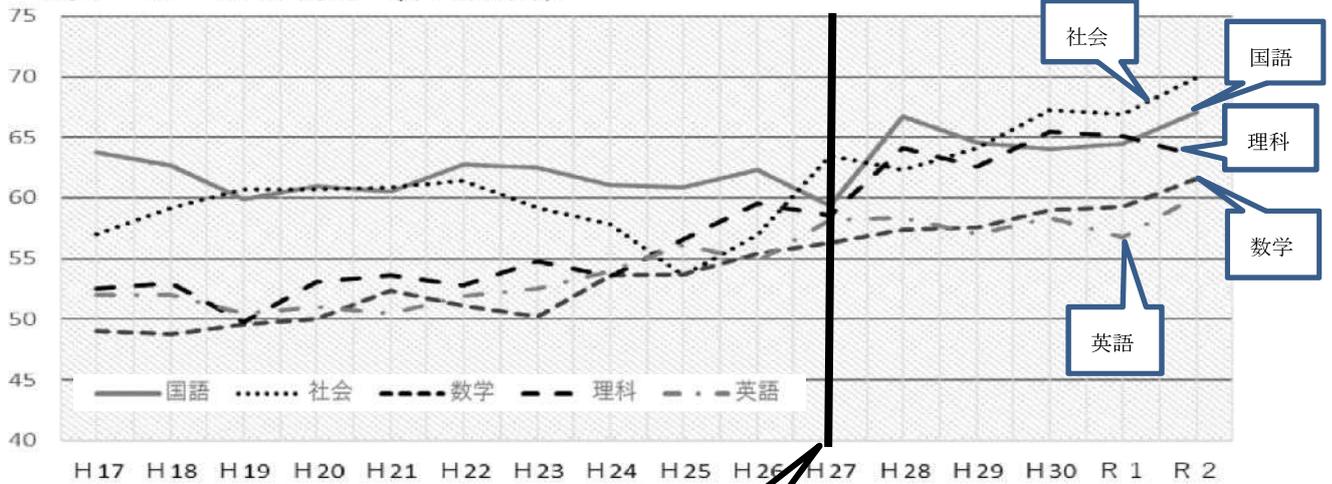
### Q 1 3 理解度 理科



2. 授業に対する好感度、理解度、有用感等について

(1) 好感度 「すきだ」「どちらかといえば、すきだ」

Q5～9 好感度（各教科）



■ すきだ □ どちらかといえば、すきだ

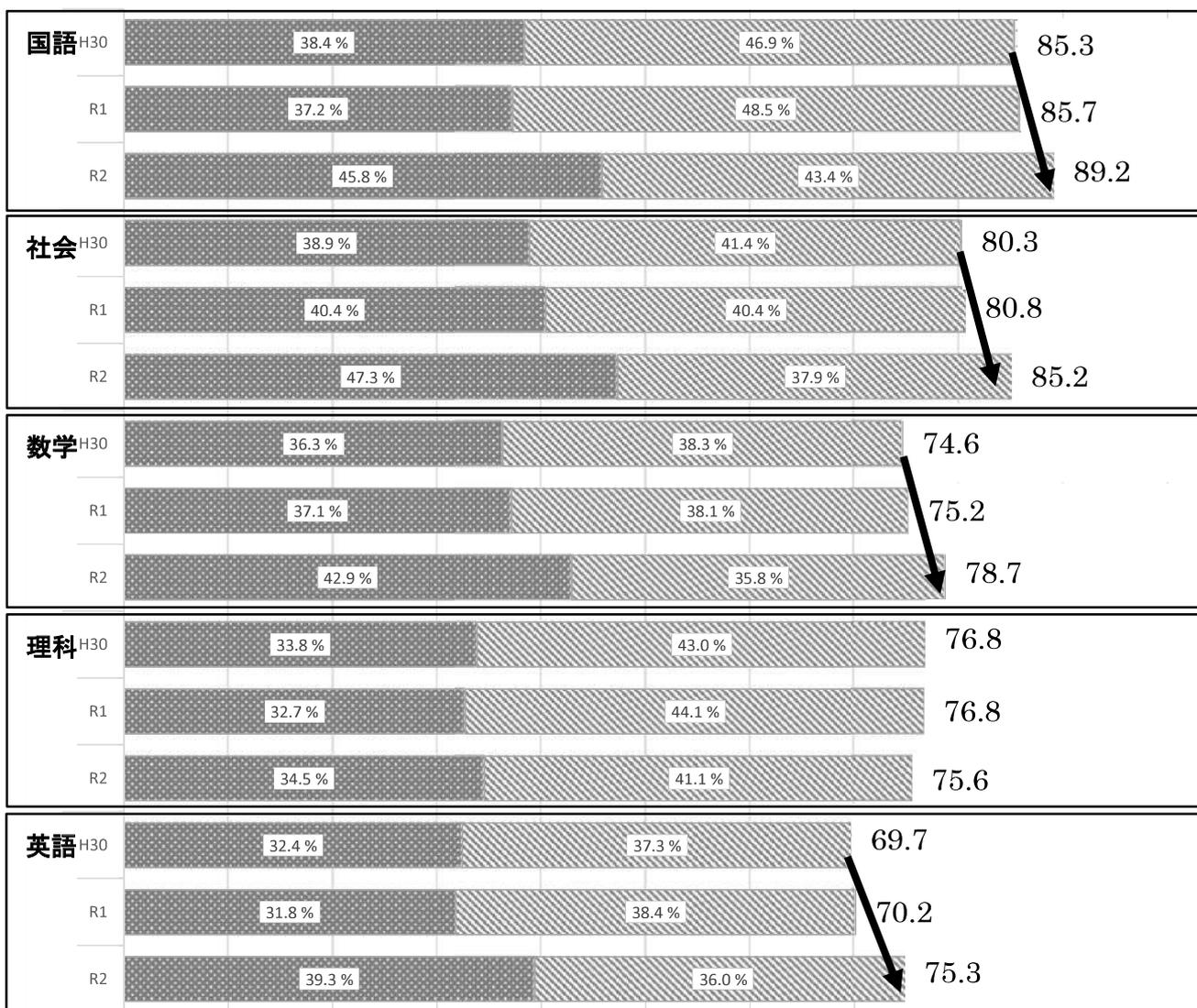
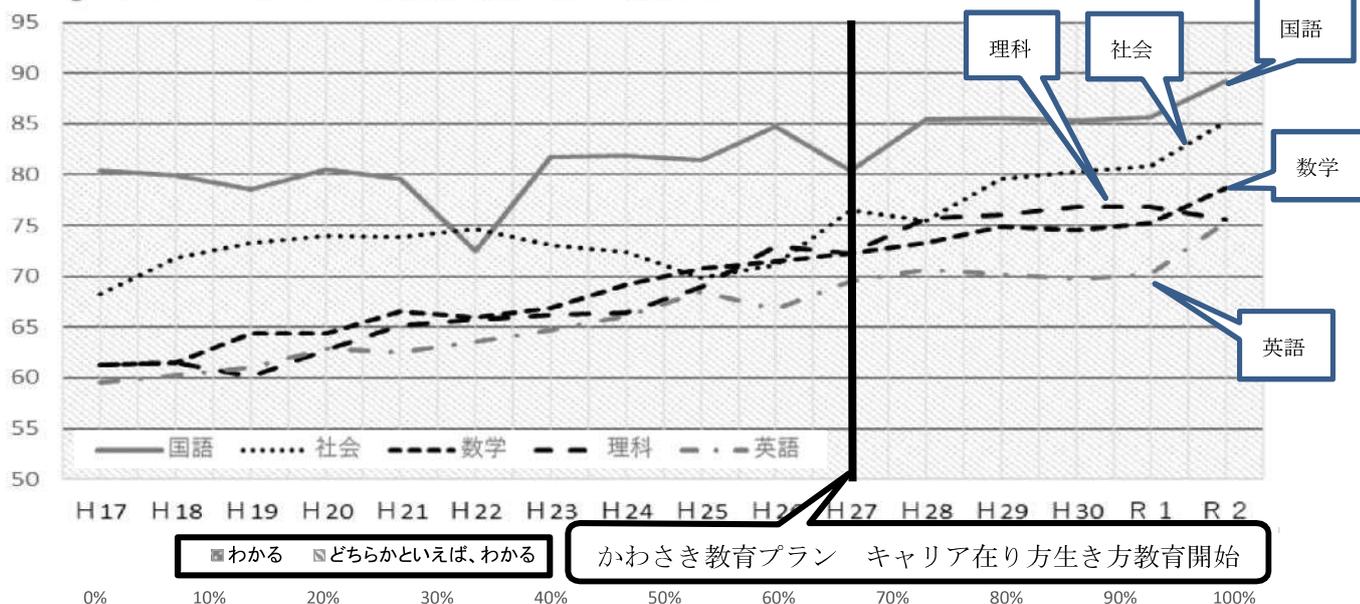
かわさき教育プラン キャリア在り方生き方教育開始

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

教科	学年	すきだ (%)	どちらかといえば、すきだ (%)	合計 (%)
国語	H30	22.0%	42.0%	64.0
	R1	20.5%	44.0%	64.5
	R2	26.3%	40.8%	67.1
社会	H30	29.4%	37.9%	67.3
	R1	30.4%	36.5%	66.9
	R2	33.7%	36.3%	70.0
数学	H30	25.6%	33.4%	59.0
	R1	26.2%	33.1%	59.3
	R2	29.4%	32.2%	61.6
理科	H30	27.1%	38.4%	65.5
	R1	25.8%	39.3%	65.1
	R2	26.8%	36.7%	63.5
英語	H30	24.5%	33.9%	58.4
	R1	24.0%	32.8%	56.8
	R2	27.0%	33.2%	60.2

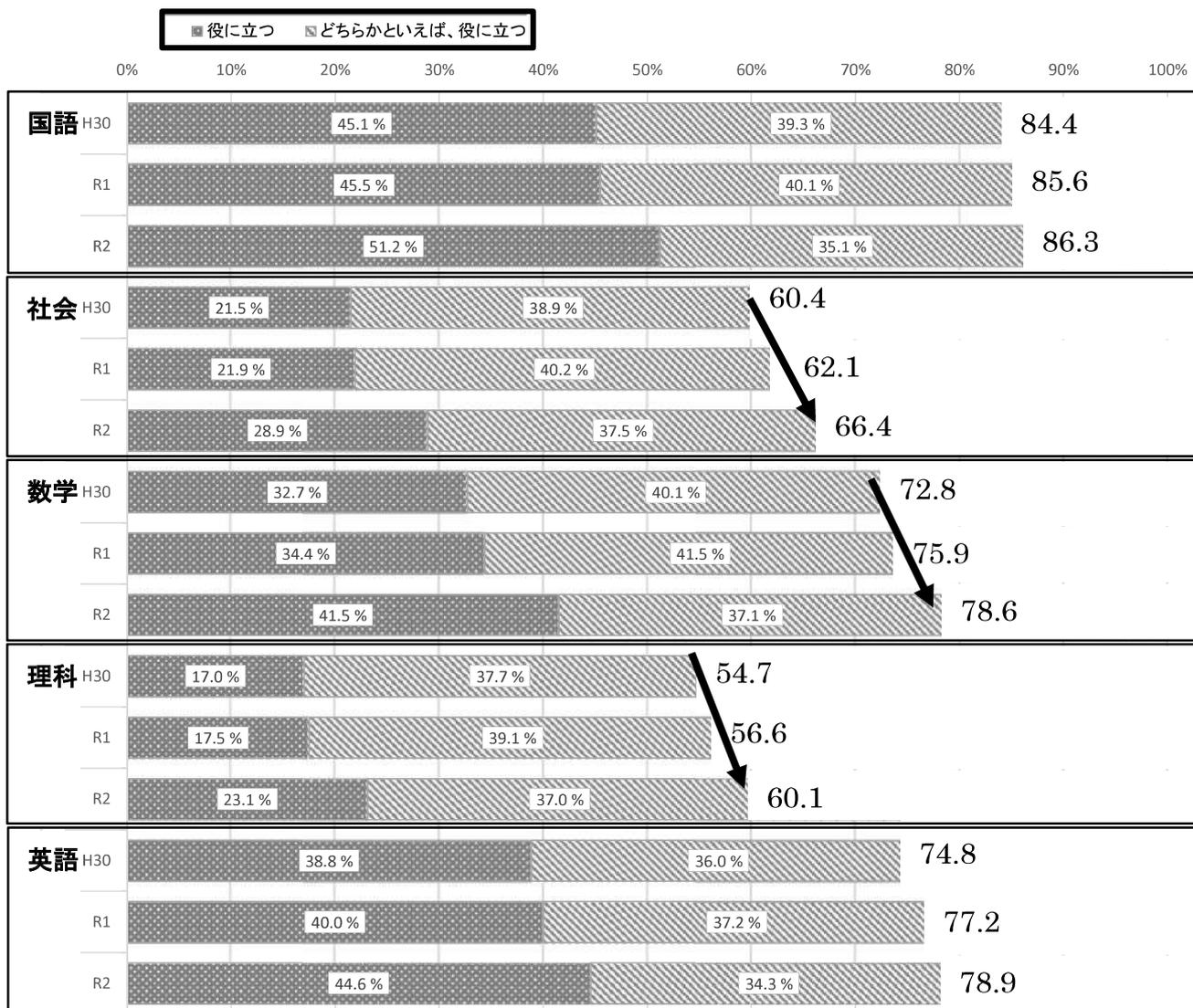
○授業の好感度（「すきだ」と「どちらかといえば、すきだ」を合わせた割合）が最も高いのは、「社会」の70.0%で、以下、「国語」67.1%、「理科」63.5%、「数学」61.6%、「英語」60.2%となっている。

# Q 10～14 理解度 (各教科)



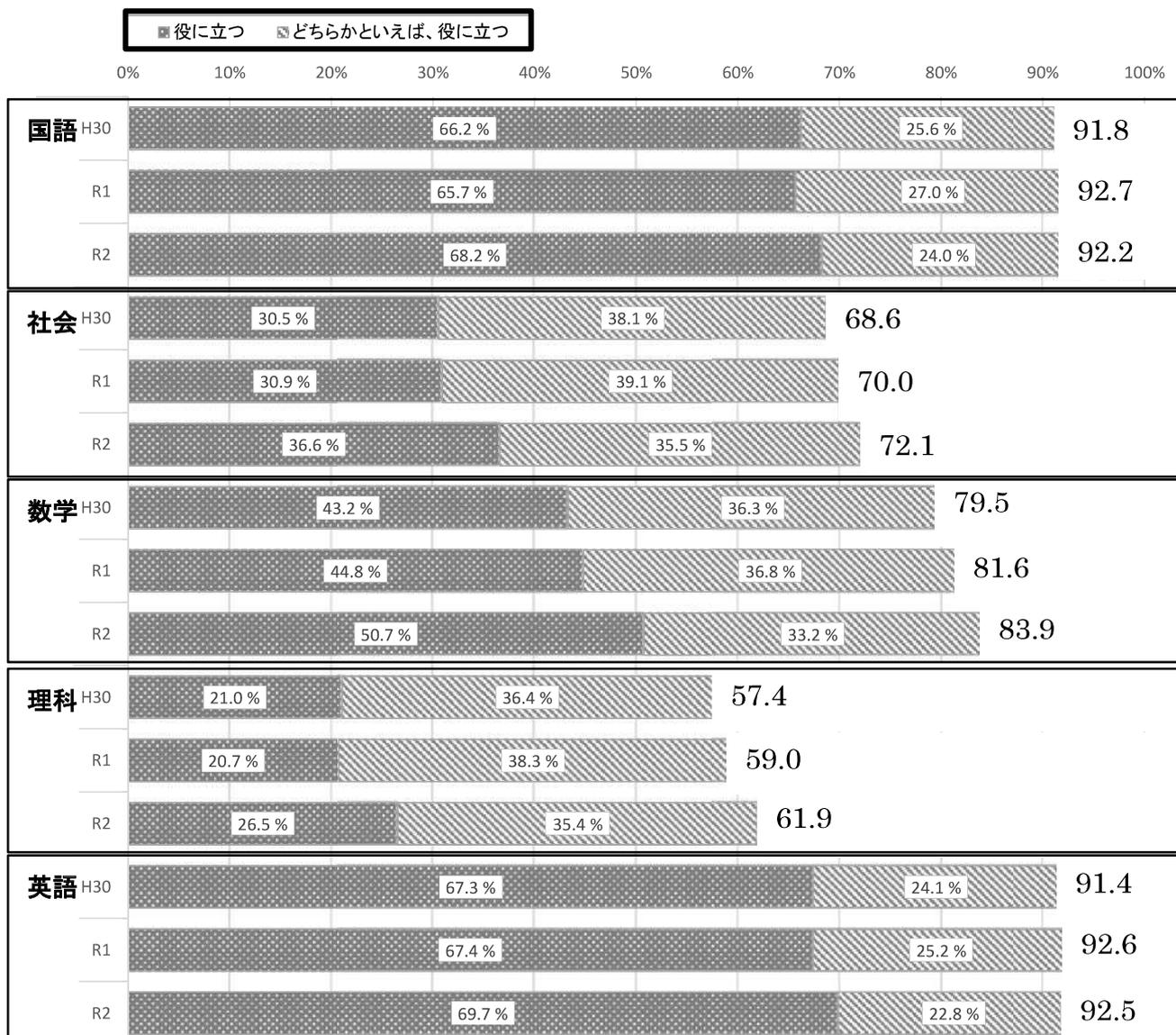
○授業の理解度（「わかる」と「どちらかといえば、わかる」を合わせた割合）が最も高いのは、「国語」の89.2%で、以下、「社会」85.2%、「数学」78.7%、「理科」75.6%、「英語」75.3%となっている。

(3) 有用感 (生活) 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」



○肯定的な回答をした生徒の割合は、すべての教科で増加している。

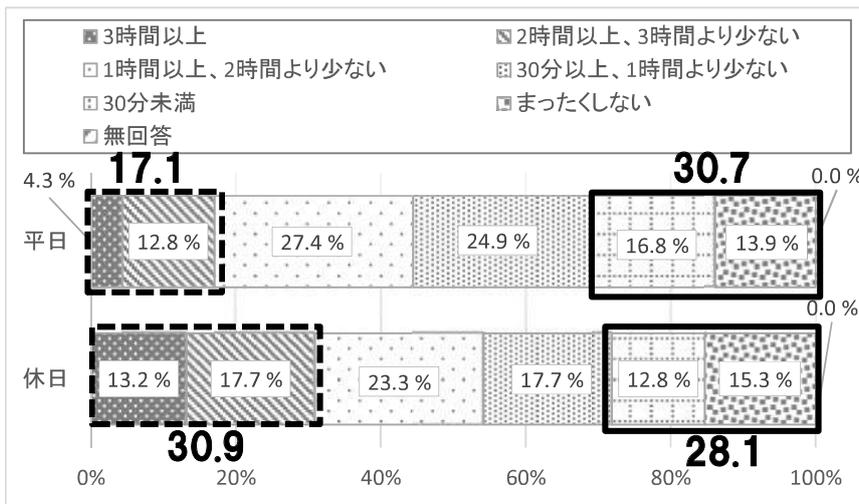
(4) 有用感 (将来) 「役に立つ」「どちらかといえば、役に立つ」



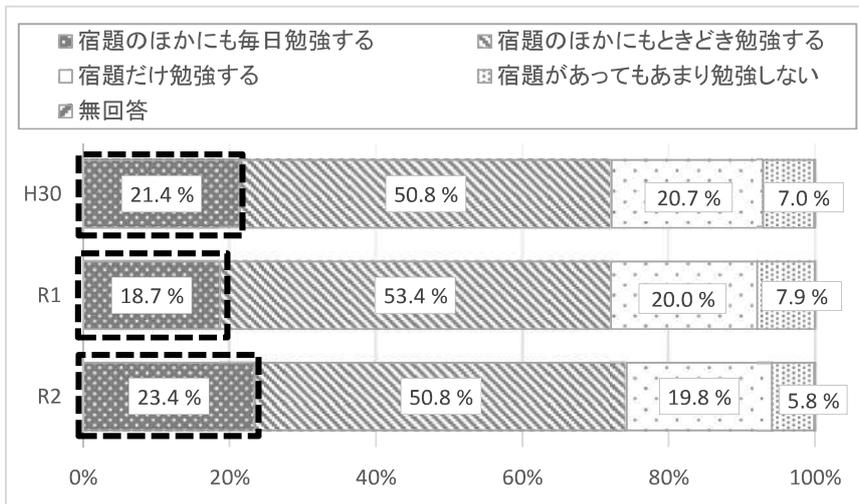
○国語と英語については、ほぼ同程度で、肯定的に捉えている生徒が9割を超えている。社会、数学、理科については、ほぼ同程度で、増加している。

### 3. 家庭学習の実態

#### (1) 学習時間【問 31～32】

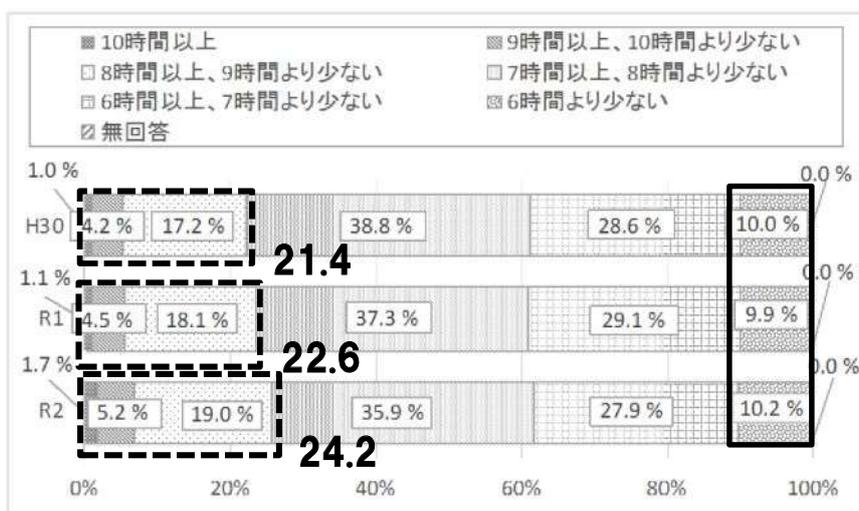


#### (2) 学習内容【問 33】



### 4. 家庭生活の実態

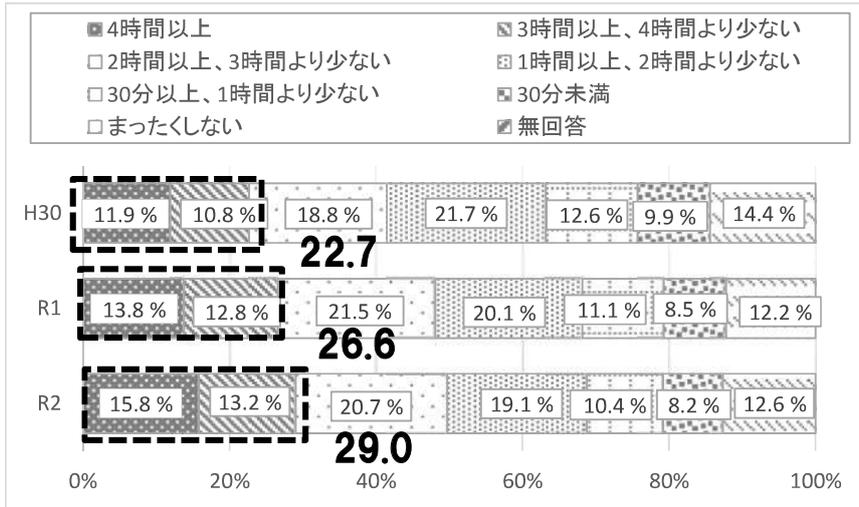
#### (1) 睡眠時間【問 35】



○睡眠時間が「8時間以上」の生徒の割合は、年々増加している傾向にある。

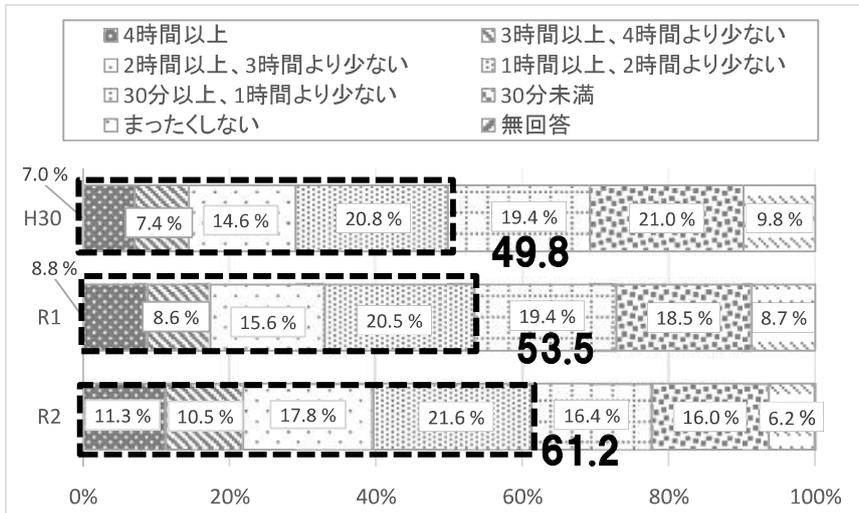
○睡眠時間が6時間未満の生徒の割合は、大きな変化は見られない。

(2) テレビゲームの実施時間【問 38】



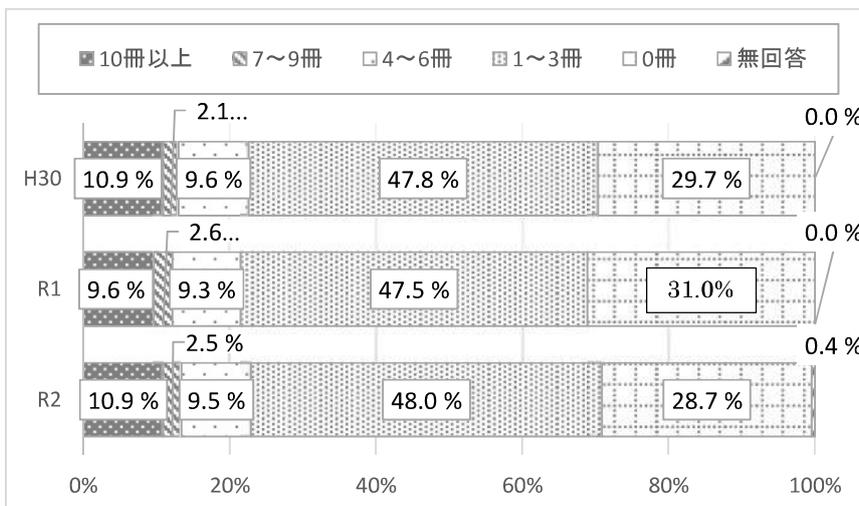
○テレビゲームを「3時間以上」していると回答した生徒の合計は 29.0%で、2.4 ポイント増加している。

(3) 携帯電話やスマートフォンの使用時間【問 40】



○使用時間が「1時間以上」の回答の合計は、61.2%であり、昨年より7.7ポイント増加した。

(4) 1ヶ月の読書量【問 42】

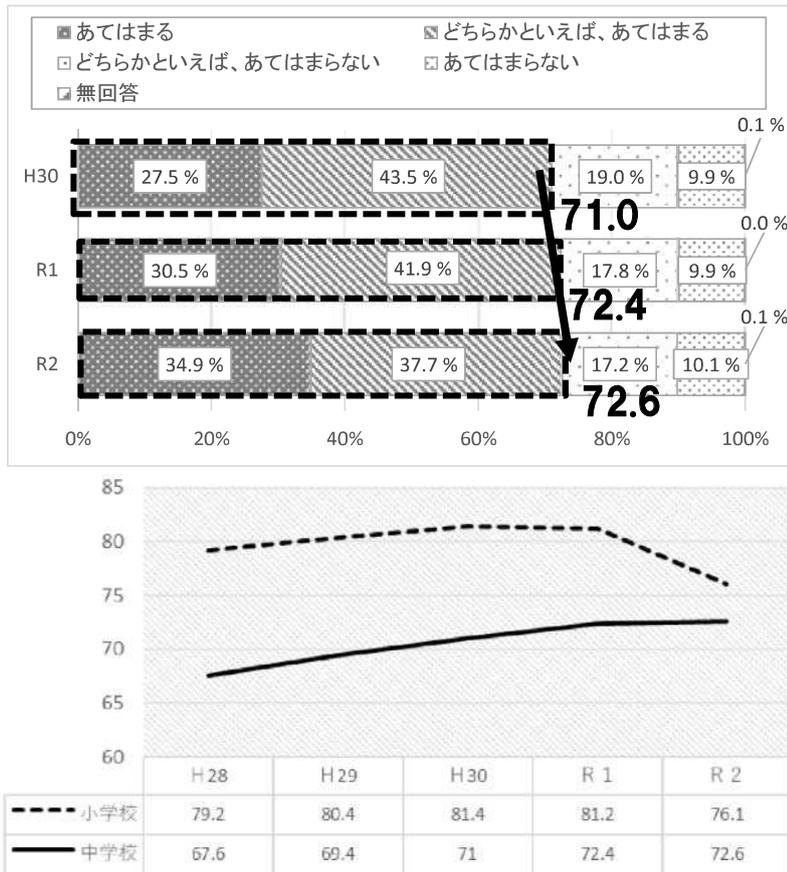


	平均冊数
H30	2.8冊
R1	2.7冊
R2	3.8冊

○1ヶ月の読書量の冊数が 3.8 冊で昨年度より 1.1 冊増加した。

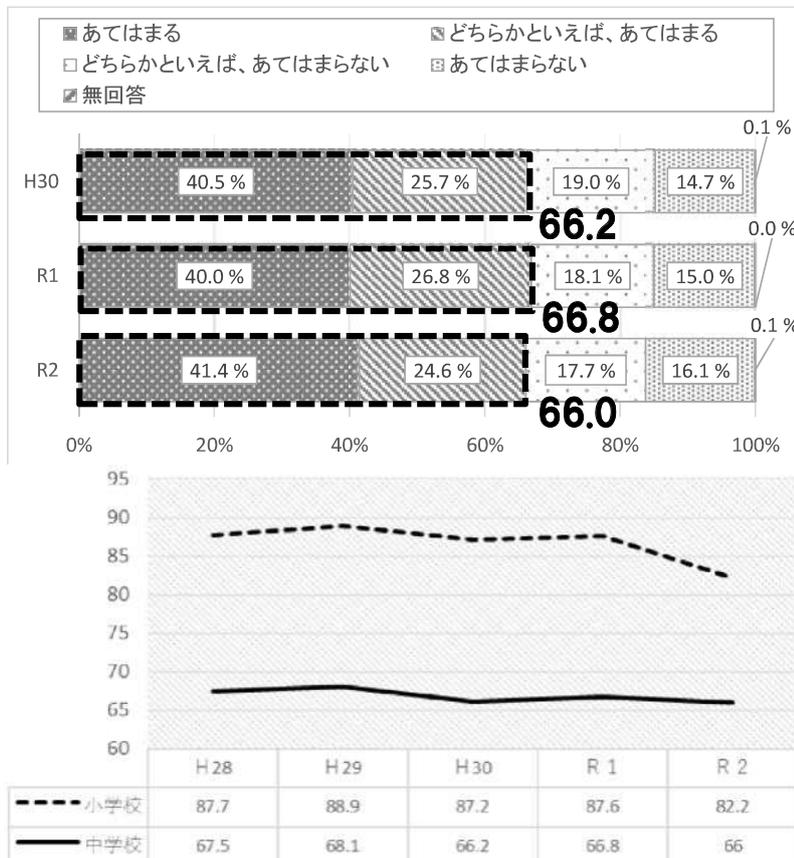
## 5. 自己肯定感・将来に関する意識などについて

### (1) 自分にはよいところがあると思う【問 45】



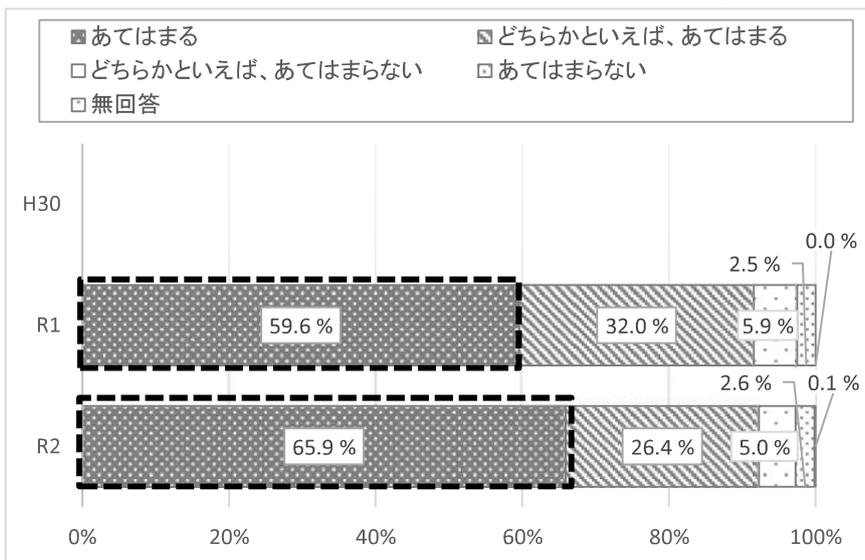
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は、72.6%で、昨年度よりも0.2ポイント増加した。

### (2) 将来の夢や目標を持っている【問 46】



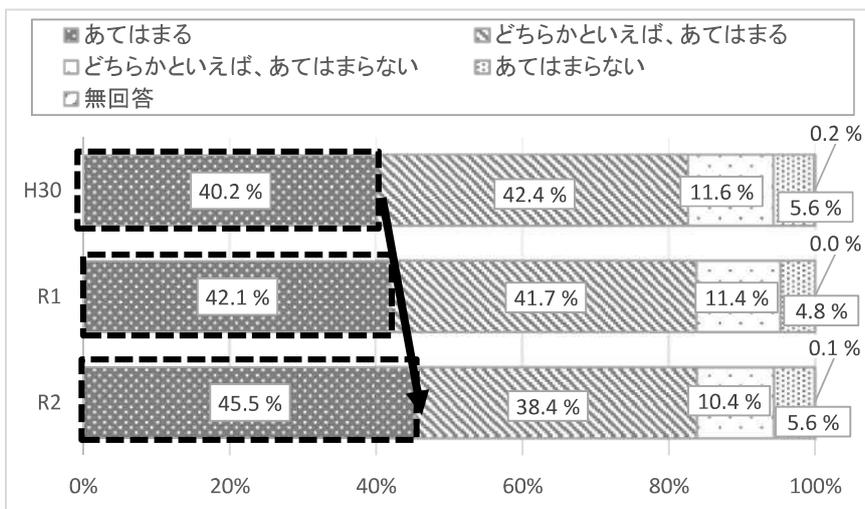
○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は、昨年度よりわずかに減少している。

### (3) 人の役に立つ人間になりたいと思う【問 47】



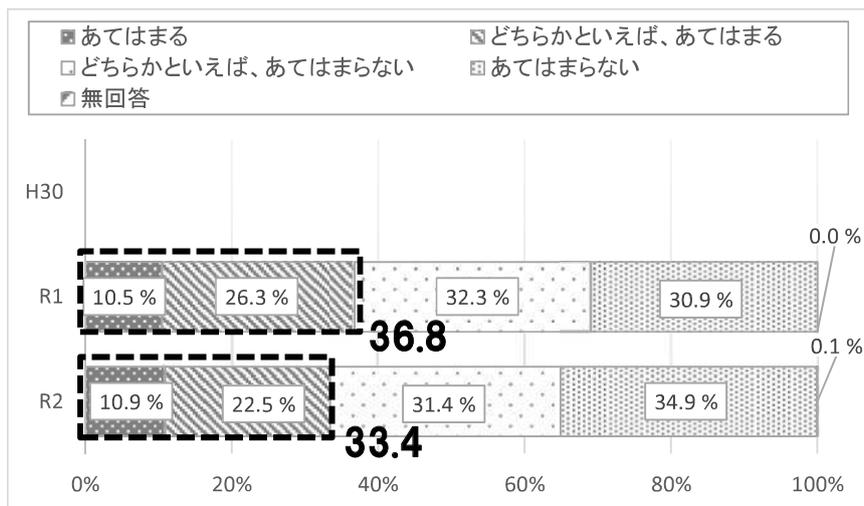
○「あてはまる」と回答した生徒の割合は 65.9%で、昨年度より 6.3 ポイント増加した。

### (4) 自分の町が好き【問 50】



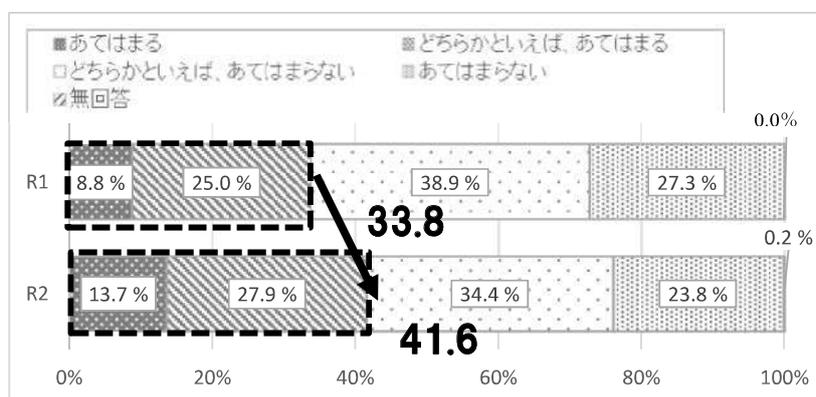
○「あてはまる」と回答した生徒の割合は 45.5%で、昨年度よりも 3.4 ポイント増加した。

(5) 今、住んでいる地域の行事に参加している【問 51】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は、33.4%であり、昨年度より 3.4 ポイント減少した。

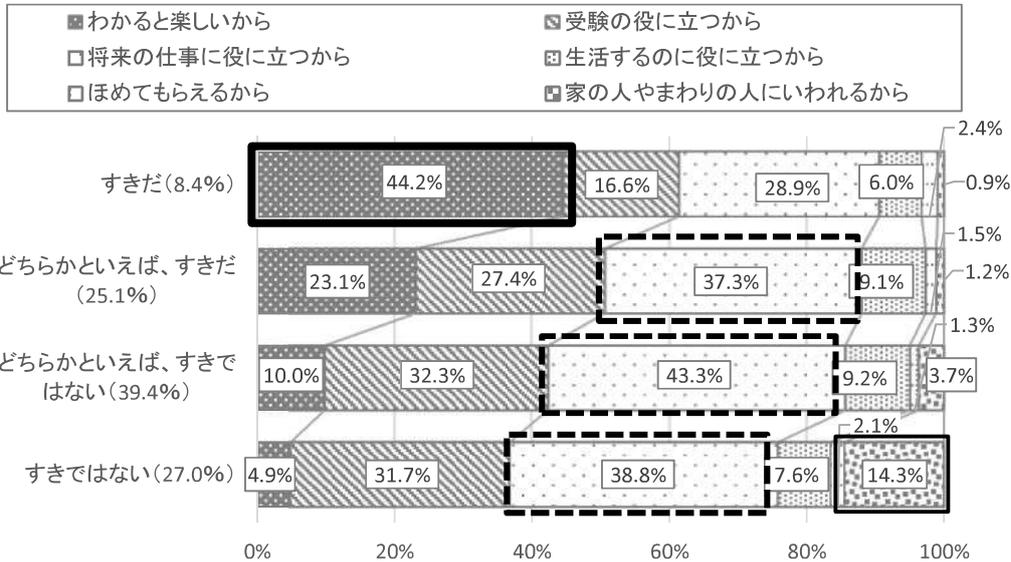
(6) 地域や社会のために、何をすべきか考えることがある【問 52】



○「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」と回答した生徒の割合は 41.6%であり、昨年度より 7.8 ポイント増加した。

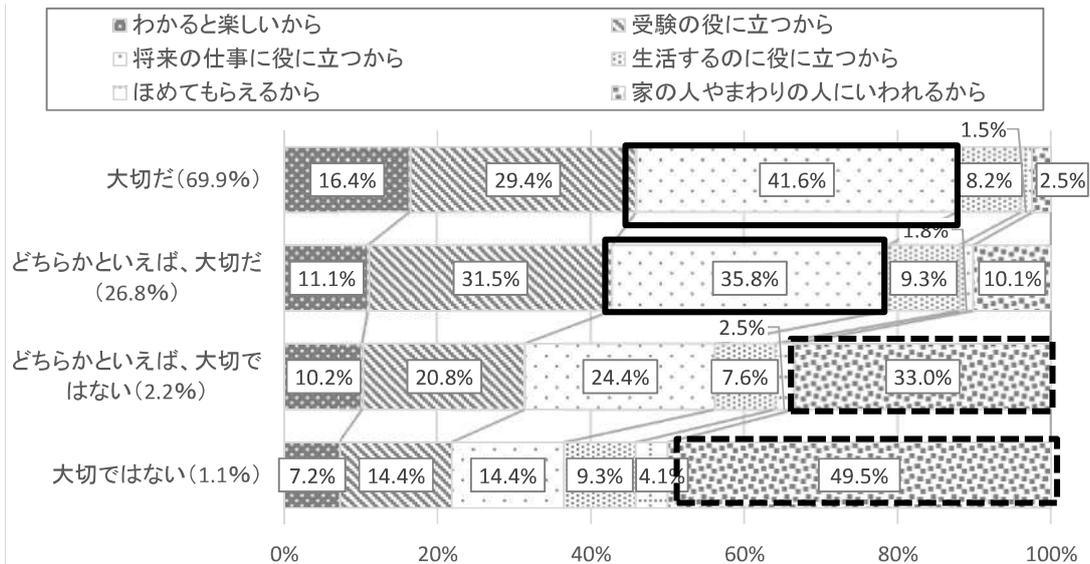
## 6. クロス集計

### (1) 学習に対する好感度【問2】 × 勉強する理由【問4】



○勉強が「好きだ」と回答した生徒の44.2%が、「わかると楽しいから」を理由に挙げている。「好きだ」と回答した生徒以外は、「将来の仕事の役に立つから」を理由に挙げている割合が高い。

### (2) 学習の必要性【問3】 × 勉強する理由【問4】



○学習に対する必要感が高い生徒ほど、「将来の仕事に役に立つから」を勉強する理由に挙げている割合が高い。

◎ 調査結果の活用

1. 経年観察およびその考察

学年	経年変化の観点	趣旨	実施年度			考察
第2学年	文章を的確に読み取り条件を満たして記述する（文学的文章）	思・判・表	H30	R1	R2	文学的文章の内容を捉え、条件に即して記述する設問である。R1では正答率が高まった要因として、登場人物の立場の明確さや心情を捉えやすい会話表現を挙げた。今年度は「昔は静書と同じように」につなげて解答する設問であったが、その「静書」の現状を文章から捉えることが難しく、そのため「その人」の状況の変化を捉えて記述することも難しかったと推察される。設問についても研究を重ねていきたい。指導の工夫としては、読み取った内容を文や文章で表し、それが適切であるか検討する活動を授業に取り入れること等が考えられる。
			問4(工)	問4(カ)	問4(ウ)	
	文のつながりの理解（説明的な文章）	思・判・表	H30	R1	R2	抜き出された一文が、文章中のどこに入るかを答える設問である。3年間の経年で見ても正答率は50%～60%であり、文章全体を捉える中で、文や段落の文章中でのほたらきや、前後の文や段落相互のつながりを考えることに課題があると言える。授業では、事実と意見や、文章全体と部分との読み分けながら内容を理解していくことができるよう、指導の工夫が必要である。
			問5(ア)	問5(ア)	問5(イ)	
歴史的仮名遣いの理解	知・技	H30	R1	R2	H30は「ちひさき」、R1は「あひぬ」、R2は「つかひければ」の出題で、いずれも「ひ」という歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す設問である。今年度も誤答としては仮名遣いを直すのではなく現代語訳を答えているものが多かった。正答率に変動が見られるので、今後とも注意して見ていくとともに、問題の意図を理解することや、歴史的仮名遣いの理解を深めることについて引き続き指導していきたい。	
		問6(ア)	問6(イ)	問6(イ)		
資料をもとにし、立場を明確にして自分の考えを記述する	思・判・表	H30	R1	R2	H30は「手書き文字の大切さ」、R1は「図書委員として伝える読書のよさ」、R2は「最も親しい人に自分の本音を伝えやすい手段・方法」をテーマにした出題であった。自分の意見だけを書いている誤答やアンケート結果の分析をしているだけの誤答が見られ、問われている内容を十分理解しないうまま書いている生徒がいることがわかる。一方、無答率については、H30が32%、R1が16%、R2は15%となっている。諦めずに取り組み	
		問7	問7	問7		

国語の例

理科の例

第2学年	公式に基づいた立式	知・技	H30	R1	R2	正答率も昨年度とほぼ変わらず、25%の生徒が溶質の質量で分子質量をかけた式を立てていたことがわかった。水溶液の性質を理解させるとともに、全体の質量が溶けた物質の質量も加わっていることに着目させたい。
			問3a	問3b	問3a	
	58%	43%	47%			
グラフの作成	知・技	H30	R1	R2	原点を打点すること、測定値を正しく打点することができていなかった。今後、実験結果をグラフにまとめるといった活動をもっと効果的・効率的にするためにICTを利用することが考えられる。また、苦手意識をもつ生徒には班などで教えあうことも有効だと考える。	
		問5c	問6c	問5a		
41%	53%	42%				
関連付けた複数のデータを根拠にした予想	思・判	H30	R1	R2	昨年度と同様に柱状図を参考に地層の形状を特定する問題で本年度は会話形式にして設問までの思考の過程を示したが、本年度も正答率が低い。まずは、授業でモデルや実験を確実に取り入れるとともに、生徒自身にモデルや実験に対して様々な見方を考えさせたり、“気づき”を演出する場面を取り入れたりすることで学習	
		問11c	問11c	問11c		

英語の例

第2学年	会話文を聞き、適切に応答する	思・判・表	H30	R1	R2	無答はあったものの、正答に近い答案が6割あった。誤答で落と、綴りの誤りが目立ったが、問われている内容を理解して、応答していることが見やり取りの場面を継続的に取り入れ、普段から単語ではなく文で応答することを心掛い。
					放4	
	助動詞を含む文の並べ替え	知・技	H30	R1	R2	昨年度は正答率が低下した問題だったが、今年度は教科書で扱われている基本表こともあり正答率が上がった。基本的な表現については、文構造を意識させつつ、言語中で実際に繰り返し活用させて定着を図りたい。
			問4d	問4d	問3c	
72%	25%	65%				
メールの内容理解	知・技	H30	R1	R2	約6割の生徒が誤答となっており、メールの形式の英文の内容理解には課題がある。りさまざまなタイプの英語に触れる必要がある。また、言語活動の中で、ただ日本語にではなく、読む目的を明確にしながら、活動に取り組みせたい。	
		問6b	問6c	問5b		
41%	34%	42%				
会話の流れに合った英文を書く	思・判・表	H30	R1	R2	昨年同様に、正答率が1～2割程度となっており、英文を書くことに課題が見られる語を英語にするだけではなく、その英文が使用される場面と結び付けた指導が必要でた、語順の間違いが見られるので、言語活動の中で、よく使う表現や定型の表現を繰り返しながら定着を図る必要がある。	
		問8a,b	問8a,b	問7a,b		
8%,38%	45%,10%	19%,13%				

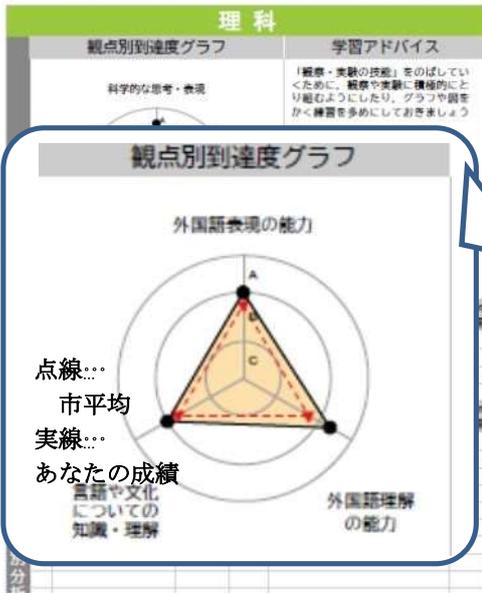
## 2. 個人票

### 川崎市立中学校 学習状況調査 個人成績表

108号 川崎市学園新テスト中  
中学2年 2020年11月10日実施

1413001  
●中学校  
2年 1組 1番

#### 教科別分析



#### ■成績表の見方

この学習調査は、今後のよりよい学習のために、観点別の学習状況と領域別の到達度を評価するものです。  
 <今回の成績> ●「正答率グラフ」は棒グラフであなたの正答率を表示し、▼印で市内平均正答率を表示しています。  
 <教科別分析> ●観点別のあなたの到達度を「レーダーチャート」で表示し、観点別の学習方法をアドバイスしています。  
 ●「観点別正答率グラフ」は、それぞれの観点に該当する問題について、あなたの正答率を表示しています。  
 ●「領域別正答率グラフ」は、それぞれの内容に該当する問題について、あなたの正答率を表示しています。▼印で市内平均正答率を表示しています。  
 ●「教科別アドバイス」は、教科全体についての学習状況をチェックし、あなたの強点と思われる正答率の良かった内容を取り、その内容の学習方法をアドバイスしています。  
 <結果分析> ●小規模ごとの市内平均正答率をグラフと数値で表示し、あなたの正誤と見比べてみることできます。

#### ■意識調査

国語

国語生活（学校生活も含めて）の中で、自分の思いや考えを積極的に打ち出すようにしていますか。

打ち出している	39.4	打ち出していない	60.6
どちらかといえば、打ち出している	39.2	どちらかといえば、打ち出していない	60.8
どちらかといえば、打ち出していない	15.8	どちらかといえば、打ち出している	21.5
打ち出していない	5.6	あまり使わない	98.3
無回答	0.0	無回答	0.1

社会

わからない地名に出会ったら、自分自身で地図などを調べて調べますか。

調べようとしている	38.2	調べない	36.1
どちらかといえば、調べようとしている	27.5	どちらかといえば、調べない	26.9
どちらかといえば、調べない	31.7	どちらかといえば、調べようとしている	23.3



#### 学習アドバイス

「外国語表現の能力」では、単語や文法の力を生かした基本的な表現力が身につけていきましょう。今後はやや長めの英文を何度も声に出して読んだり書いたりして、高い表現力を身につけるようにしましょう。「英語や文化についての知識・理解」では単語や文法についての基本的な知識を身につけていましょう。日々の学習で知識をさらに確かなものにするともに、新しい単語や文法を積極的に学んでいましょう。

問題1

問題2

問題3

問題4

問題5

問題6

問題7

問題8

問題9

問題10

問題11

問題12

問題13

問題14

問題15

問題16

問題17

問題18

問題19

問題20

問題21

問題22

問題23

問題24

問題25

問題26

問題27

問題28

問題29

問題30

問題31

問題32

問題33

問題34

問題35

問題36

問題37

問題38

問題39

問題40

問題41

問題42

問題43

問題44

問題45

問題46

問題47

問題48

問題49

問題50

問題51

問題52

問題53

問題54

問題55

問題56

問題57

問題58

問題59

問題60

問題61

問題62

問題63

問題64

問題65

問題66

問題67

問題68

問題69

問題70

問題71

問題72

問題73

問題74

問題75

問題76

問題77

問題78

問題79

問題80

問題81

問題82

問題83

問題84

問題85

問題86

問題87

問題88

問題89

問題90

問題91

問題92

問題93

問題94

問題95

問題96

問題97

問題98

問題99

問題100

No	観点名	正答数 / 問題数	正答率	正答率グラフ (▼は市内平均)	市内平均正答率
1	外国語表現の能力	1 / 4	25	▼	14
2	外国語理解の能力	11 / 17	65	▼	54
3	英語や文化についての知識・理解	4 / 6	67	▼	59

No	領域名	正答数 / 問題数	正答率	正答率グラフ (▼は市内平均)	市内平均正答率
1	読むこと	11 / 17	65	▼	55
2	書くこと	1 / 4	25	▼	14
3	聞くこと	4 / 6	67	▼	58

【聞くこと】の領域では、英語を聞いて理解する力がまずまず身につけているようです。自分の答えを書く問題では、英文を書く練習も必要です。  
 【読むこと】の領域では、代名詞が何を指しているのかに注意しながら、語の内容を確実に理解するようにしましょう。さらに、もうひと層深いものに挑戦してみるの也不错い

問題8

I want to visit America.  
 Because I didn't like English.  
 But I like English. You  
 reached me, so I happy.  
 You had very well thank  
 you.

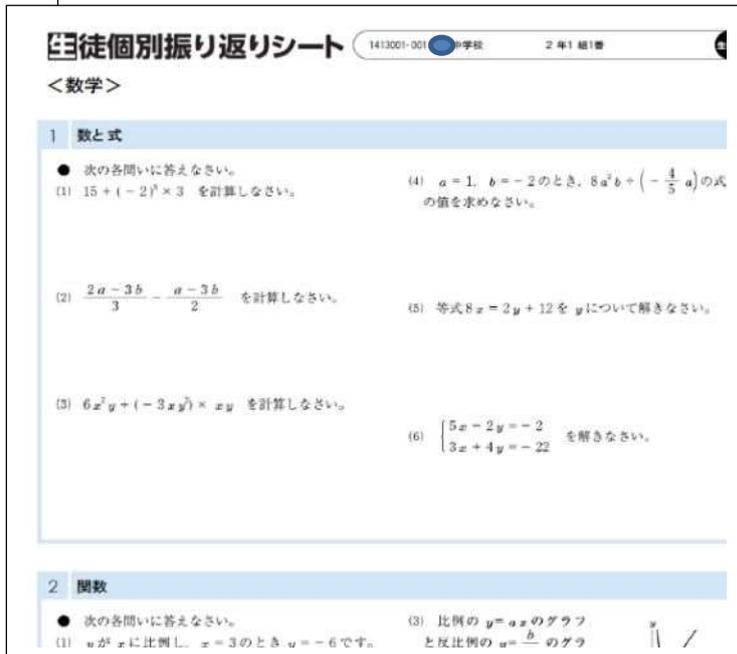
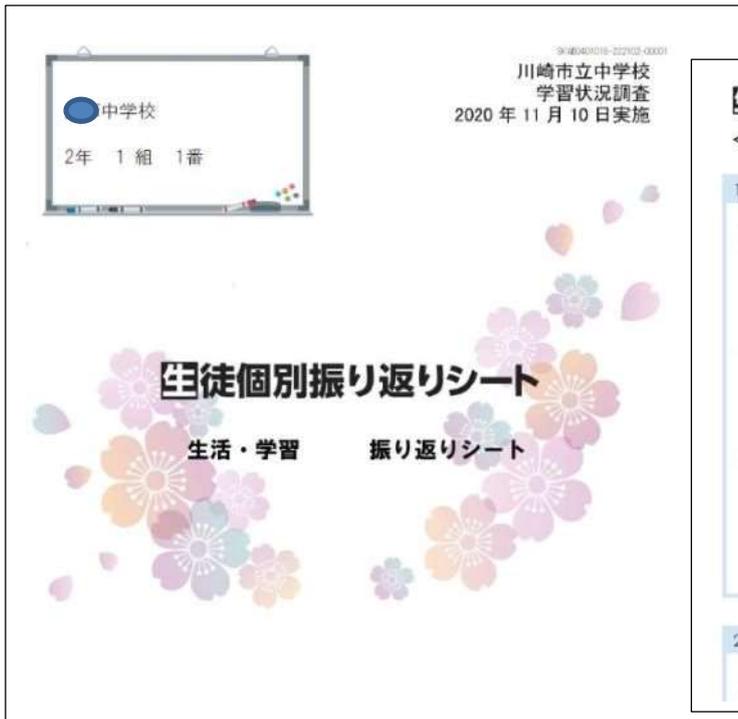
領域	設問内容	正答率グラフ	平均正答率	正誤		
大問	小問	領域	設問内容	正答率グラフ	全体正答率	正誤
1	1	1	読むこと	55	55	○
1	1	1	速文選択	86	86	○
1	2	1	速文選択	88	88	○
1	3	1	速文選択	86	86	○
2	1	1	代名詞 目的格	67	67	●
2	2	1	There isの疑問文	54	54	○
2	3	1	前置詞by	82	82	○
3	1	1	一般動詞の過去文	69	69	○

教育相談や三者面談の機会などを利用して、個人票を返却し、一人一人の生徒が学習に取り組む態度や家庭生活での学習のあり方を改善することに活用している。

また、学校や教員が一人一人の生徒の学習状況を的確に把握することにより、指導方法含めた授業改善や教育課程の検証・改善を図ることに活用している。

### 3. 振り返りシート

【参考例：数学科】



#### 生徒ごとの課題に応じた問題例

単項式や多項式の四則計算をすることは定着している生徒への問題

- 次の各問いに答えなさい。
- (1)  $15 + (-2)^3 \times 3$  を計算しなさい。
- (2)  $\frac{2a-3b}{3} - \frac{a-3b}{2}$  を計算しなさい。
- (4)  $a = 1, b = -2$  のとき、 $8a^2b + (-\frac{4}{5}a)$  の式の値を求めなさい。
- (5) 等式  $8x = 2y + 12$  を  $y$  につ

単項式や多項式の四則計算をすることに課題がみられる生徒への問題

- 次の①～⑤にあてはまる数や式を答えなさい。
- (1)  $15 + (-2)^3 \times 3$   
 $= 15 - \text{①}$   
 $= \text{②}$
- (2)  $6x^2 - 3x + 2 - (x^2 + 4x - 9)$   
 $= 6x^2 - 3x + 2 - \text{③}$   
 $= \text{④}$
- (4)  $a = 1, b = -2$  のとき  
 $8a^2b + (-\frac{4}{5}a)$   
 $= -8a^2b \times \text{⑤}$   
 $= \text{⑥}$  (式)  
 $= \text{⑦}$  (数)
- (5)  $8x = 2y + 12$   
 $15x - 2y = -2$

ヒストグラムから、資料の傾向を読み取ることが定着している生徒への問題

- 次の各問いに答えなさい。
  - (1) ある学校の1年生50人の垂直跳びの記録をまとめましたが、35 cm 以上 40 cm 未満のところはインクでよごれて見えなくなっています。
  - (2) あるクラスの生徒20人の通学時間とめました。
- 
- ① 通学時間が15分の人は何分以上ではまりますか。

ヒストグラムから、資料の傾向を読み取ることが定着している生徒への問題

- あるクラスの生徒全員の通学時間を調べて、まとめました。次の各問いに答えなさい。
  - (2) 通学時間が25分以上30分未満の人数を求めなさい。
  - (3) 通学時間が15分未満の生徒は何人以上いますか。
  - (4) 通学時間が長いほうから数えて、通学時間が15分未満の生徒は何人以上いますか。
- 

「生徒個別振り返りシート」では、生徒の学習状況に応じてフォローアップ問題を提供し、生徒一人一人の課題を改善できるようにしている。

生徒ごとの課題に応じて、定着していることを確認する問題や課題とみられることを補充する問題を提供している。

## 4. 周知の方法

- ① 報告書の活用（設問ごとの授業改善の手立てなどの活用）
- ② 教科主任会や教科総会、教育課程説明会での説明
- ③ 要請訪問（拡大要請訪問を含む）での説明
- ④ 中学校学習指導要領実践事例集の作成・活用  
（調査や分析の結果等を生かした事例集）

